英語苦手・多忙高専生の英語力をいかに向上させるか
−英語嫌い減少・英語力向上への取り組みから−

水野　知津子*

How to Motivate and Improve KOSEN Students' English Ability as They Overcome Negative Attitudes toward English Learning

Chizuko MIZUNO

ABSTRACT

Many engineering-course students are said to have an aversion to studying English and communication. Various attempts have been made to develop students' English ability. Through these attempts, there appeared to be some improvements in students' English ability and reducing their negative attitude toward English learning. The author wants to apply these methodologies to students at the National Institute of Technology, Akashi College.

KEY WORDS: collaborative learning, reflection, extensive reading

１．はじめに

グローバル化した現在、異文化を理解し、世界中の人々と対等にコミュニケーションできる実践的英語力は世界で生き残るためには不可欠なものとなっている。エンジニアの分野でも例外ではない。しかしながら、多くの工学系学生は英語に苦手意識をもっており、英語教育は大きな課題となっている（西澤・吉岡・伊藤, 2010）。毎年卒業生が東大・京大・阪大をはじめとする有名国立大学へ編入学する明石高専では英語嫌いはほとんどいないのだろうか。

明石高専赴任直後の４月最初の授業で英語への態度などのアンケートを実施した。この結果、明石高専には英語に否定的態度を持つ学生が予想以上に存在することがわかった。英語嫌い減少・英語力向上を求めて取り組んだ前任校での取り組みを紹介しながら、今回のアンケート結果と比較し、英語苦手・多忙高専生の英語向上に有効的と思われる指導法を考えたい。また明石高専での英語苦手学生減少や英語力向上にするべきことを探っていきたい。

２．高専生の英語力

高専生の英語力はTOEIC公式データ資料2017年度の所属学校別平均スコアによると、大学生、高校生よりも低くなっている（図 1）。2014 年度のスコアでは

図１　学校別英語力比較における高専生の英語力
（TOEIC 公式資料 2017）

*一般科目（英語）

大学院生が 524 点、(リスニング 282 点＋リーディング 242 点)、大学生 445 点（リスニング 249 点＋リーディング 196 点)、高校生 410 点（リスニング 241 点＋リーディング 169 点）に対して、高専生は 349 点（リスニング 208 点＋リーディング 141 点）となっている（Uguisukyou、2014)。また学年別のスコアを見ると、高校生、大学生では学年を上がるにつれて TOEIC の平均スコアが上がる（図 2）のに対して、高専生のスコアは 3 年生になると大きく下がる傾向がある。2015 年度資料（図 3）では 2 年生で上がり、3 年生で下がっているが、2014 年度資料（図 4）では 1 年生のスコア 373 点が最も高く、2 年生の 370 点から下がりはじめ、3 年生 332 点で大きく下がり、4 年生 337 点で徐々に回復し始め、5 年生 369 点となり、1 年生スコアに近づいていた（Uguisugyou、2014)。この理由としては高専では 2 年生から理系科目が難しくなり、また専門科目の実験などが入るため多忙になり、英語学習に多くの時間をかける余裕がないことが考えられる。

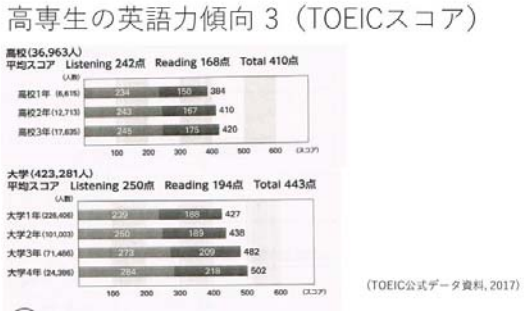

図 2　高校生・大学生の学年別 TOEIC 平均スコア（TOEIC 公式資料 2017）

図 3　高専生の学年別 TOEIC 平均スコア比較（TOEIC 公式資料 2015）

高専生の英語力傾向 2（TOEICスコア）

学年	Total	Listening	Reading
1	373	226	146
2	370	222	148
3	332	199	133
4	337	202	135
5	369	218	151

(XXX , 2014)

図 4　高専生の学年別 TOEIC スコア平均

３．先行研究

３・１　工学系大学・高専の取り組み

英語に苦手意識を持つ工学系大学生・高専生を対象に様々な取り組みが行われている。しかし、学生の動機付けに成功した報告は多いが、英語運用能力の向上を測定した報告は少なく、苦手意識を持つ学生を含めた大多数の平均的な英語運用能力の向上を測定できた報告はさらに少ない。指導法に関しては文法訳読だけではなく、コミュニケーション重視の指導も必要である。最近では多読の有効性が注目されている（西澤・吉岡・伊藤、2010)。

３・２　外国語学習における有効な指導法

英語嫌い減少・英語力向上の取り組みにあたって筆者が今まで指導した経験から有益であると感じたものは協働学習、リフレクション、メタ認知方略、多読などである。有効な活動をペアやグループで行い、コミュニケーションを楽しみ、振り返る事で自分自身の成長と英語学習の楽しさを実感することができる。学生同士が親しく楽しく学習することでクラスの雰囲気も良くなり、英語力向上につながる。

協働学習は初心者・苦手意識のある学生の発達を助ける。人はより能力の高い者との社会的相互作用、適度なレベルの支えにより潜在的なレベルまで成長することができる（Vygotsky、1978)。

第二言語習得理論では、大量の理解可能なインプットと適量のアウトプットを組み合わせる必要がある（白井、2013)。外国語学習成功者の研究（竹内、2010）から外国語学習には王道はない。不断の努力が必要であり、学習段階に応じて効果的な活動を適切な時期に使用させるのがメタ認知方略である。授業では目標言語に触れ、レベルにあった活動をさせながら英語を使用する必要がある。学習定着度ピラミッド（National Training Laboratories、2014）でも講義を聞くだけでは 5%の定着度が実際に練習をすることで 75%に上昇すると考えられており、英語を積極的に使用する重要性を示している。

リフレクション（Rodgers、2002; Tamai、2009）は自分の経験を振り返ることで、自分の変化に気づく。成長を実感することで自信を持ち、英語嫌いを減らす可能性がある。

多読は辞書なしで比較的簡単な英語の本を直読直解

でどんどん読む事である。大量のインプットを可能にでき、英語力向上の効果が大きい（高瀬、2014）。多読は英語力全般の向上、英語に対する自信と動機付け、英語外部試験のスコア向上（西澤、2015）に有効であり、読みの流暢さや読書習慣も向上できる。

アクティブ・ラーニングは教師が講義・解説に終始せず、学生に積極的に活動させ、学生に主体的・対話的で深い学びをさせる（江利川、2017）。

大学入試対応と実践的英語力育成の両立を可能にするためには、学生に音読、再生・産出活動のようなアウトプットなど多様な活動をさせる必要がある。和訳も全訳ではなく、部分和訳だけにしてその分バランスの取れた指導を行うことがより有効である（鈴木、2016）。

４．筆者の英語嫌い減少・英語力向上の取り組み

４・１ 前任校の英語嫌いの現状

前任校では英語嫌い・苦手意識を持つ学生が多かった。赴任したばかりの英語教員の筆者に「うちの学生は英語が大嫌いだ」と専門学科のベテラン教員が話してくれた。これは筆者にとって大きな驚きであり、英語嫌い減少・英語力向上の取り組みのきっかけとなった。最初の授業で英語に対する態度や意識に関するアンケートを行い、英語嫌いの現状を調査した。図５は

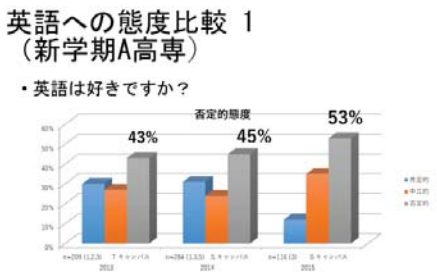

図５　前任校の英語嫌いの現状（2013～2015）

2013 年から 2015 年の 4 月最初の授業で実施した英語に対する調査結果である。英語への否定的回答は 2013 年が 43%、2014 年が 45%、2015 年は 53%であった。「英語は好きですか」という質問をたずねた。2 年目までは「かなり好き」「好き」「ふつう」「あまり好きでない」「嫌い」の 5 項択一であったが、3 年目に「かなり嫌いである」を加えた。否定的態度は「あまり好きでない」「嫌い」「かなり嫌い」の合計である。

3 年間の授業実践前の英語への否定的回答はすべて 40%以上であった。2015 年度は否定的態度が 53%に対して肯定的態度は 12%とかなり低かった。この結果から英語嫌い・苦手意識が確認できる。3 年間の取り組み（水野、2016）のなかで筆者の指導が重なった学生はいない。対象学生すべてが筆者にとって最初の学生である。

４・２ 研究概要

英語嫌い減少・英語力向上の取り組みにあたっては有効と思われる理論や指導法など実践方法を取り入れていった。学期や年度最後の授業後にアンケートを実施し、英語に対する態度変化や授業の効果などを調査した。結果を見ながら実践方法を少しずつ変えていった。主なものとしては協働学習、メタ認知方略、リフレクションで 3 年目からは多読を加えた。前任校にはキャンパスが 2 つある。2 年目には別のキャンパスに異動となったが、取り組みは継続していった。

４・３ 結果

取り組みを始めた 2013 年 4 月はじめに「うちの学生は英語が大嫌い」と言っていた専門学科のベテラン教員の発言が 2016 年 1 月には「英語が好きな学生が増えている」に変化した。英語嫌いの数は減少し（図 6）、英語力も向上していた。

2 年目から勤務したキャンパスでは 3 年間 3 年生の担当責任者となった。3 年生には外部試験（GTEC for STUDENTS）を受験させており、その結果は大きく公表されていた。責任者はスコアを前年度より下げないよ

英語に対する態度結果（授業実践後）

「英語が好きになった」
- 1）22%　対象：2013年 188名　（高松キャンパス）
- 2）24%　対象：2014年 259名　（詫間キャンパス）
- 3）28%　対象：2015年 116名　（詫間キャンパス）

	好きになった	変化なし	嫌いになった
2013年高松	22%	65%	13%
2014年詫間	24%	69%	7%
2015年詫間	28%	71%	1%

図６　英語に対する態度結果（2013～2015）

外部試験結果（Sキャンパス）
- 筆者担当3年生：４年次のTOEICスコアでもスコア向上
  - 1年目 2014年度3年生→2015年度　324.1
  - 2年目 2015年度3年生→2016年度　333.7

<Sキャンパス　4年生TOEICスコア変遷>
- 2009年度　平均点　243.6
- 2010年度　平均点　270.5
- 2011年度　平均点　277.3
- 2012年度　平均点　250.7
- 2013年度　平均点　282.5
- 2014年度　平均点　268.1
- 2015年度　平均点　324.1
- 2016年度　平均点　333.7

図７　４年生時の外部試験（TOEIC）結果

う求められた。結果は担当した 3 年間連続して前年度 2 年生時のスコアより伸び、責任を果たすことができた。この 3 年生たちは、翌年 4 年生になって受験した外部試験（TOEIC IP）スコアを連続で前年度より上げている。前任校 4 年生の TOEIC スコアは全国高専平均スコアに近づきつつある（図 7）。

５．明石高専での取り組み

５・１ 英語嫌い調査

4 月から全国高専トップと言われる明石高専に赴任した。明石高専 4 年生の平均スコアは、TOEIC IP を全員受験した 2009 年は 389 点（140 名）、2010 年は 408 点（139 名）であった。2014 年 5 月では 5 年生 146 名が受験し、平均スコアは 452 点となっている。図 4 の公式 TOEIC スコアの全国高専 4 年生平均スコア 337 点、5 年生平均スコア 369 点と比較すると明石高専学生の英語力の高さがわかる。

赴任直後こちらの学生にふさわしい指導法を探る必要もあり、最初の授業時にアンケートを実施した。実施した学年は担当したクラス、5 年生は M 科と E 科の 2 クラス（図 8）と 2 年生は全クラス（図 9）である。結果は予想以上に英語に否定的な態度の学生が多かった。

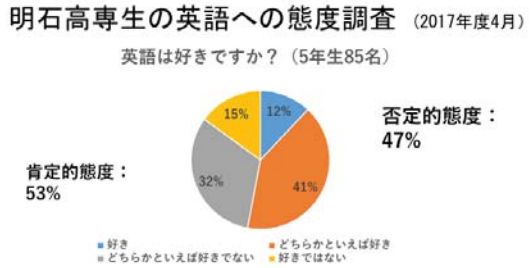

図 8　明石高専 5 年生（85 名）の英語への態度

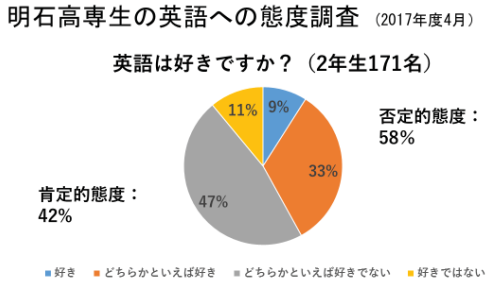

図 9　明石高専 2 年生（171 名）の英語への態度

5 年生 85 名の英語に対する態度は肯定的態度が 53%、否定的態度は 47%であった。2 年生 171 名の肯定的態度は 42%、否定的態度は 58%であった。「英語は好きですか」という質問に対して中立的回答をなくすため、「好き」「どちらかというと好き」「どちらかというと好きでない」「好きでない」の 4 項択一にした。

５・２　授業実践

明石高専にも多くの英語苦手学生がいることがわかった。多くの有名国立大学に編入学する学生の多い 5 年生のクラスにも英語を苦手とする学生がいたが、全体としては意欲的な学生が多い印象を受けた。難関大学の編入を希望する学生が多いと聞いており、難関大学入試の長文問題集を使用した。学生が主体的に学習するグループワーク中心の授業を行った。内容理解後コミュニケーション活動をする余裕はなかったが、様々な音読活動を入れた。

2 年生はクラスによって雰囲気や学生も異なっていた。前年度に選定された検定教科書を使用している。筆者のやり方が前任者と異なるとクレームが入り、自分のやりたい活動を少しずつ入れながら調整している。クラスによって多少指導内容を変えている（図 10）。

A高専での試み

対象クラス
５年生２クラス　85名：大学編入を目指す学生が多く意欲的
２年生４クラス　171名：クラスで異なる。専門科目課題で忙しく、英語は後回しになる傾向が強い。

教材
5年生：難関大学用入試長文問題集
2年生：検定教科書 English Communication Ⅱ

内容理解
5年生：本文を何度も読む必要があるワークシートで解答後、グループで相談しながら取り組む。
2年生：予習ノートを中心に内容確認。ワークブックで復習（自宅）

図 10　明石高専前期授業実践

前期考査結果から、前任校より英語の不得意な学生がいることがわかった。一方で英語の得意な学生も多く、中学生時に高校 2 年生頃に合格するのが好ましいと言われる英検準 2 級に合格している学生もいる。学生のレベル差が大きく、英語力の高い学生は求めるものが高い。教科書を教えるのではなく、教科書で英語をどんどん使用させる工夫が必要と実感している。学生の様子を見ながらどちらの英語力も引き上げ、興味を持たせる工夫がさらに必要である。

高校と同じ検定教科書を使用しているためか、進度が遅いというクレームも入った。高校と比較すると単位数が少なく、英語を使う活動を入れるため遅いと感じたのかも知れない。目標通りに進度は進んだが、後期は学生に教科書内容を発表させるなどさらに活躍してもらい、単位数の不足もカバーできるようにしたい。後期からはグループ活動を中心に、プレゼンやコミュニケーション活動等、学生に英語をできるだけ使用さ

せ、さらにしっかり勉強してもらう予定である。

６．おわりに

前任校での英語嫌い減少・英語力向上で効果のあると思われた教授法を明石高専でも実践している。前任校とは学力が異なるが、英語やコミュニケーションを苦手とする学生が多いのは同じようである。2 年生では授業外の多読課題に加え、夏休みなどにも多読を自主課題として苦手学生の英語力向上や動機付けに生かしたい。今後は前任校で有効と思われた指導法に加え、学生が主体的に活動するアクティブ・ラーニングに向けて指導法を模索したい。

参考文献

1) 江利川春雄 ： 日本の英語授業実践史から現代の英語教育政策を問う、英語授業研究学会第 29 回全国大会発表資料集、47-52 頁 (2017).
2) 水野知津子 ：“香川高専学生の英語苦手改善・英語力向上への試み—多読の有効性を考える—”、関西英語教育学会紀要　英語教育研究、第 39 号、57-67 頁 (2016).
3) 森和憲 ：“香川高専詫間キャンパスにおける外部試験結果を基にした授業改善の試み—GTEC, TOEIC, TOEIC Bridge の結果を基に—”、全国高等専門学校英語教育学会研究紀要、第 34 号、29-38 頁 (2015).
4) National Training Laboratories : “Learning Pyramid” www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/cer/kikaku/.../pdf/1.pdf, retrieved on May 5, 2014.
5) 西澤一 ： 多読プログラムの成否要因と実践上の工夫、関西多読新人セミナー発表資料、(2015).
6) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃 ：“工学系学生の苦手意識を克服し自立学習へ導く英語多読授業”、工学教育、第 58 号-3、12-17 項（2010).
7) C. Rodgers: “Defining Reflection: Another Look at John Dewey and Reflective Thinking”, Teacher College Record, Volume104, 4, (Columbia University), pp. 842-866, (2002).
8) 佐野正之（編著）：「アクション・リサーチのすすめ–新しい英語授業研究」、大修館書店 (2000).
9) 白井恭弘: 2016 年 9 月 12 日検索 http://fll.mit.edu/jltane/style/Shirai.pdf
10) 鈴木寿一 ： これで良いのか入試対策授業、外国語教育メディア学会関西支部中学高校授業研究部会、英語の教え方研究会、より良い英語教育を考える会共催　第 22 回中学高校教員のための英語教育セミナー発表資料、(2016).
11) 高瀬敦子: 早めの多読・多聴で大きな効果、英語授業研究会関西支部・230 回例会発表資料、(2014).
12) 竹内理 ：「より良い外国語学習法を求めて」、松柏社 (2010).
13) K. Tamai : “English Teaching Analysis”, Unpublished material for a graduate course at Kobe City University of Foreign Studies　(2009).
14) TOEIC 公式データ資料 ： 2017 年 6 月 16 日検索 http://www.iibc-global.org/toeic/official_data/lr.html.
15) TOEIC 学内模試結果資料：2018 年 1 月 10 日検索 明石高専内作業台教務資料
16) Uguisukyou : 2014 年 3 月 5 日検索 http://uguisu.skr.jp/toeic/school_score.html.
17) L. S. Vygotsky : “Mind in society” The development of higher psychological processes (Cambridge, MA : Harvard University Press, 1978).